

斯道の鬼神と稱せらるる世捨人の山納如何で先生の對手となるべけんや斯し給へと云ふに近藤聽かず今に辭するに由なく鐵如意を取つて立つ近藤曰く凡そ武技を圖はするに皆其益あり汝も猛如意を捨て欲するものもなしと云ふ

り武闘を振るべからず、這倒即ち可なり、近藤又聞かず、是に於て頭陀袋の中より二個の木碗を取り出し左右の所に、置して

大に怒り一ト突に仆さんとするに和齋

巖ともどはれで突出す倉に胸板を碎かしし
思ひもや和尙ひらりと身を避け同時に櫓を
もて倉の終巻を夾みぬ近藤大に襲ひし金剛

唯、油汗の浸々として出るあるのみ、かくて半餉餘りを過ぎし頃、尙一喝を下すことと

是に於て禮をたゞしてまことに萬夫不當の伎倆なりとも貴僧は阿處の人なりと問ふ、和尚曰く、我は薩婆尾の山の物外と云へる

和尙なまけるかど厚くもてなして歸べしは
と云ふ、物外は獨り武技に長ぜしのみな

て其乃風采に接するの想ありしと云ふ和宮内親王降嫁の時

スロイドル

桐一葉おちて天下の秋をしる
と吟じたる一句の如き人口に會ふせり今
神宗落翼父此の如き風流體を見ること能

能 三
諸十句(春季結) 下關 善哉
母刀自のシテ諸ふや桃の家

春の夜を寫し春の夜を誦ふ哉
春の夜を慕ふ先生と諸ふ哉
春の夜を殿に召れて諸ひけり
たしぬけに曾呂村と花の葉

小諸の雪駄行くなり月の花
殿様の花に絡みつ刺み足
花御殿諸に更けて静かなり

武勇の譽

前回は辨じましたる通り岩見重左衛門はさ
しもの劔術の達人で柳座いますすが酷評をし

へに作れるつぎは、地味を^ま見まして、大に
 驚かすつぎ、元様何うな体いふまなかつ
 か、あそばされて下さいませ、大層顔色が
 悪くなさいます、寛政つぎは四五日前か
 ら、いせむな先が、病お越へに知らせまいと
 堪へてあつたが、今はは、何うもひどく、さ
 んで、いかん、ん……、つぎ、しつかり
 して下さいませ、しヨウ、つぎは、叶まら
 ぬ、兒が、機業とたしかにお持ちなすつて、う
 んへまわつたつぎ、時一生懸命に、分他をい

でございませうから用ゐるの薬もございませう
夫は即出して薬をくひしばつて居ませうと
海牛くのおとこ口をわけまして口中へ口う
つしに薬を入れて見ましたが中へくへく何うし
てひたひた差込藥りの功もございせん彼是
半時ばかりたつとひたひたさがついたと見へて
重ウツのとき大に心配をかけて大分よく
なつて癒つたつぎ何のくらひたぞういた
か知れませんが少しはよくなりましたが重

じや今までのじは覺へない、前路は雪をつかんで口に入れ漸やく太息をついで居ました。さう御兄様貴下のねからだは御大切敵さう討までは千金にも替へがなよとさいます。さういふしゆふでございませうけれども、茲に水所をすとお身体にさむますつもの胃を便りに早く板橋のはたごやへ参りまして御養生をなさいます。

煙草製造販賣

入シ多年鍊磨ノ技術ヲ以テ
 ノ製造業相宜ノ懇切勉強ナリ
 拘御購買ノ願上候
 紙巻煙草
 旭の煙 二十本
 文の煙 二十本
 鳳の煙 二十本
 刻煙草ノ
 高尚優美特製煙
 煙草ノ

其他絨卷煙草各種王道八密

公報
(十月午後二時
十五分領事館着)

9

追 逃 の 攻 撃 の 標 的 原 子 子
進 行 中 であるに反し、我軍部隊は勿論皆
通商品と雖も棄置し揚子江又は天津方面より
營口に送附せんとするの場合陸軍總司令部
にては例猶又は量目に依つて密に制限を加
へられ少量の荷物すら停滯することの實に
甚しく位ひなるが現在の戦争に於ては連戦
連敗の憂國が斯かる特典を獲得し連戦連勝
の我國が爾かる迫害を被つてゐるに至り
ては實に沙汰の限りと云ふべし
又た通商商人等が天津より密輸入を爲すに

特派員

越ねて五日西公園に於て斬首の刑に處せ

この爲め

と見
を、知
を、解
に、然
は、從
し、貨
買、收
し、將

●聖旨及令旨　先日御顧問使より傳へられたる聖旨及令旨は本日長谷川大將殿より傳へられし如し

●天皇后上院以下御恩許臣覺書
兩陛下の御節召を下りて關西待從兵官長して清州草壁並に韓國駐病者の親しく取せ且各部隊各々國旗懸掛病者の觀し或せしめらる昨春以來戰陣年月日に進む令旨以下の勉勵により著々其歩を進む段御満足に御思召する趣れども前衛達より益々國家の爲め戦敵軍の目を達するに力を努めようとの御旨あり

1

其の
 に英
 ても
 する
 選擇
 材料
 のは
 小
 小

其の
 韓國駐紮事務は、日南朝鮮駐紮事務と違ふ段
 満洲に御忠臣されたいに就るの季節が
 御忠臣なる軍司令官以下の手を益自
 して健康を保持し其任務を完せざる
 命令ありたり

▲外國語教師雇用の件
 英國語教師雇
 二ヶ年同調續くとともに、が尙双方の校
 廳、二十ヶ年同調續るとものに決定した
 して、其駐在が外國語教師雇用の方針とし
 其雇用期限を二ヶ年と定むる方針とす

送の

官
 したるものとし從來より
 轉延關に於て

來る十二

●馬山浦通信 特員發
△漢鐵車の始運轉 昨六日午後三時半馬山鐵道は漢鐵車の始運轉を爲し新舊馬山間を往復せり
△招聘の醫學士 居留地招聘の醫學士淺海庄一氏は本月中旬頃漢馬の旨其の筋を報知ありたり
△歐陽氏 淨土宗の僧侶二陳田氏門氏は馬山の小學校を創立し爾來昨年迄非常に盡しまが本年一月より全く純然たる居留地の

我林公

なる感歎別を授けり
○送迎記　領事館書記生立石厚良氏は今
回其の職を辭し京城軍司令部通譯官に轉任
亦其の後任として外務部學生淺山氏は書記
生となりて、新任亦舊兵隊分駐所長特務曹長
右原繁樹氏は今回其の節の命に歩み歸朝、
立石石厚良氏は今七日の山陽九便にて馬山
後立へ付く馬山の有志數指名は去る六日午
後六時料理店藏飯の奥に於て送迎の宴會を
開く由り、馬山の長年を経て酒宴と移り

2. 男を嫁に
3. 男を嫁に

被主各日客の拾八番等ありて非情の顛に
 ありしが特に暗黒の令民が遂立北遊助君
 送行原案は君と顔に於てつくりたる也、
 の如きは非常の喝采と博したり而して後
 思ひ々に散置したるは十二時漸なりき
 被保人募集 釜山の山木純一氏は眞
 生命保險會社の被保人募集の爲め事務員
 原氏啓十、葛氏と共に出で被保人募集中

宮中の動亂

赴し 臨

布して陛下に下されし之れがたれ宮中大に
格せる水鏡を聞くに 来る十五日皇太
▲玄英逸一派の策畧 殿下の千秋歌節には宮中に於て盛んなる
典を興へるにつき玄英逸も日本より歸國
して参れる等々を以て贅員女の一例
と稱せられたる李容華、金嘉福、許爲の徒
大に勢ひを得るに聖れも之れより先き玄
の第士許爲は日本の勢力を中傷せんとし

わたり

の
し
ら
公
に
と

上疏文は全く許爲の手に成りたりと稱せ
る崔の此上疏ありて陛下の意少しく惑へ
處に元老趙主世も亦非日本的の上疏を繕
たれば陛下は益々日本排斥の聲と耳を起
られたり

▲支那兵入城説　此時に際し曾て金王
親政事件の手段を以て惡漢の名を附け

同卷一

●大薩移民會社 支社東京大薩移民會社にては京城及び常澤に支社を設けずべしとの事にて、日中に事實となるべしといふ。

●鐵詰の第二期に就て 釜山柏寺兩鐵詰製造所に於ける軍用鐵詰の製出第二期が終了したる旨記載せるは誤謬にして昨日より該二期に入りてゐるといふ。

●柏寺鐵詰所 日休業なり。

●釜山井炭鐵所 釜山井炭鐵所にては昨

取撥候に

○風景風俗寫眞の題意
味に於ては渡船者の其の歸途本國への土産物に於ける風景寫眞の趣意は、實に論議でんが限に限られたるもの如き狀況なり。當韓國に於ける風景寫眞と初め人物風景等の諸品類を需要多くなり同品の賣行頗る好望なるものとありといふ。

●新屋牛所の設置
釜山缺詰製造所のは從來一個所の屠牛所を設置ありしが時局柄需用頗る多く常低需用を滿すに至らざるを以て先般來並に一ヶ所を新築中なりしが其

の如し
煩瑣

●第四期同丸の入港
入港すべしと
○建勢丸と赤組
當幸町赤組にて以目下
預貯金など韓國沿岸を航行するもの建勢丸
を借受け新津津港灣と航海せしむるの計畫
にて他の實行に着手すべしといへり
●福榮商店
今回事利に開業したる福榮
館は一見規模頗る廣大なるが商品品和洋
物にして仕入先は大坂が重なりといふ

大資本

聞

家にて

の
保
檢

古

●相撲取草蠻鐵

趣あり、故に觀客蔑視して重きを置かず、
 目かも何んを計らば大、兵肥滿の好力王
 せよかの新聞の投票に於て最多の点数を占
 めめし剛の者されは某鼻下長先生が想ひ者

てあるア、火一度失して慘いりと雖亦人心を興起する事ヨ

に尼
だ
べい
同同
十十
七三
四四

陶山洋服店

清酒賣 長好商店

洩毛 可有之散開乍路儀以新紙上禮申上候
辨天町三丁目袖 島 甚

[illegible]